

II 都市づくりの目標

1. 将来都市像

本計画の上位計画である第5次犬山市総合計画における「まちの将来像（目指すまちの姿）」に即し、将来都市像を以下のとおりとします。

まちづくりの考え方に示す「暮らしの“ゆとり”」「地域の“つながり”」「郷土への“愛着”」を大切にはぐくむことで、犬山で生まれ育った人も、犬山に移り住んだ人も、子どもからお年寄りまで市民の誰もが、市民同士のふれあいや地域とのかかわりを通して、日々の暮らしの中で幸せを実感することができるまちづくりを進めることが重要です。

市民一人ひとりが、犬山に「住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思えるまちであるとともに、市外の人にも犬山の魅力が広く認知され、「行ってみたい」「住んでみたい」と思われるまちとなるよう、目指すまちの姿を『人が輝き 地域と生きる“わ”のまち 犬山』とします。

人が輝き 地域と生きる “わ” のまち 犬山

○「人が輝き」

市民一人ひとりが、健康で生きがいを持って、ゆとりある快適な暮らしを送っている姿を表しています。

○「地域と生きる」

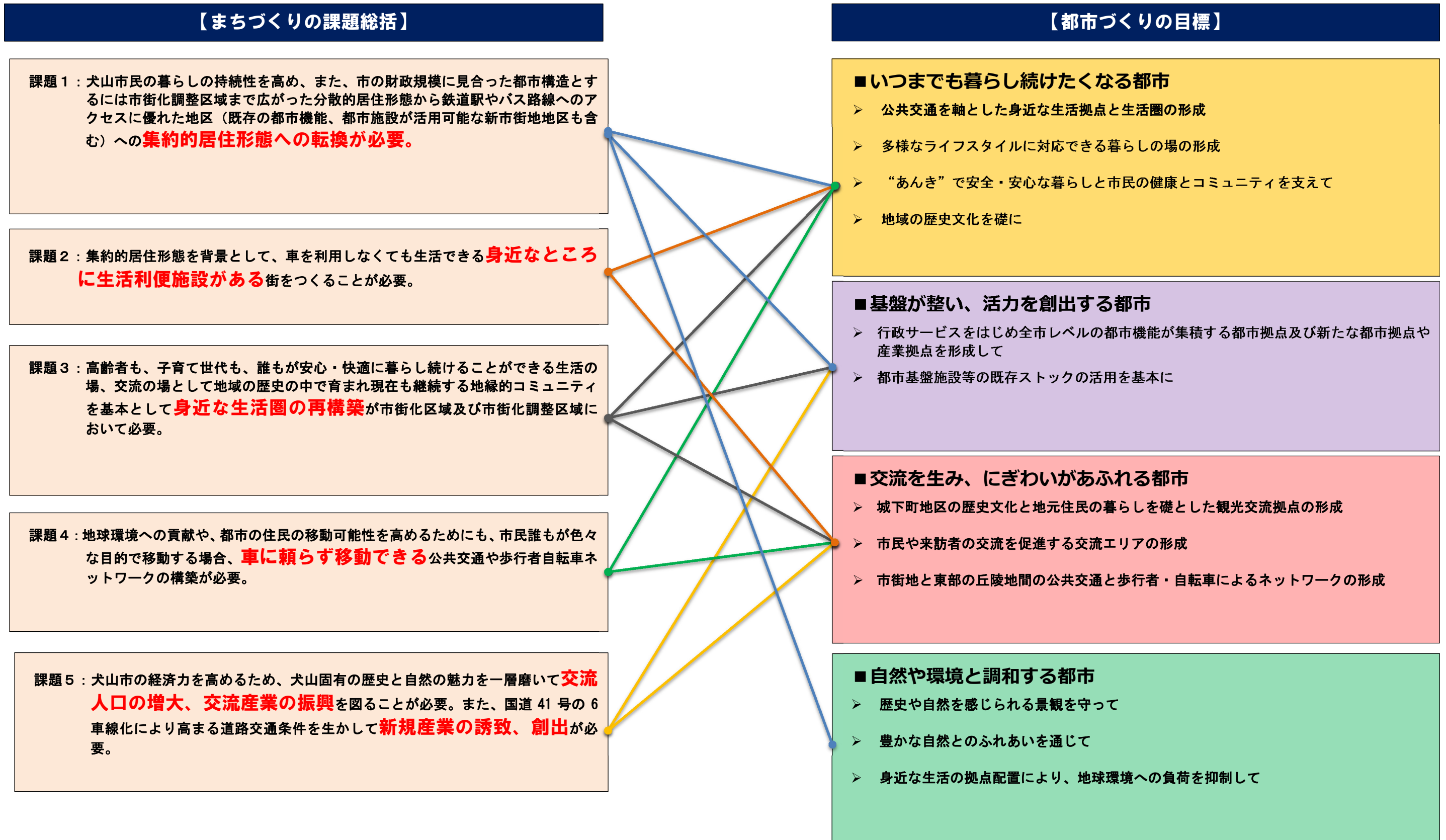
市民同士のふれあいや支えあいの気運が定着し、地域資源を活かした活発な地域活動が展開されている姿を表しています。

○「“わ”のまち」

市民同士のつながり（共生）、市民と行政のつながり（協働）、市民と来訪者のつながり（交流）など、心のつながりを大切にして、歴史・文化・自然などのまちの個性と都市の活力を兼ね備えた（調和）、魅力あるまちをつくり、次世代につないでいくこと（継承）を表しています。

2. 都市づくりの目標

1で定めた将来都市像の実現にあたって、Iで整理したまちづくりの課題の総括結果を踏まえながら、都市づくりの目標を以下のとおり定めます。



3. フレーム

本計画の前提とする人口の数値目標（フレーム）を以下のとおりとします。

第5次犬山市総合計画の中間見直しにおいては、平成27年度に策定した「犬山市総合戦略」のなかで検討された「人口ビジョン」をもとに、人口の目標を以下のとおりとしており、この上位計画に従い、平成34年における本計画の目標を以下のとおりとします。

平成34年（2022年）	
人口	
	73,400人

①居住人口

■人口ビジョンにおける長期的な人口の見通しと目標

将来の人口を推計すると(基本推計値※)、このまま何も手を打たなければ2060年(約45年後)の人口は約51,000人と予測されています。これは、平成28年4月時点の約75,000人から約24,000人減少することになります。

これを総合計画及び都市計画マスタープランの計画期間に当てはめると、計画の最終年(平成34年度)には、2,300人減の72,700人と推計されます。

こうした長期的な見通しに対し、持続可能なまちづくりを進めるために人口減少の改善が必要との考えから、出生率の向上(若い世代の婚姻率の向上、市民の出産・子育ての希望を叶えること)や、移動率の改善(若年世帯の市外への転出を抑えつつ、転入増を促進するために、居住地として選ばれるような魅力を高めること)が必要です。

これらの取り組みのうえ、2060年の時点で、犬山市は基本推計値に対し約10,000人増の61,000人の堅持に取り組むことを目標とします。

※国勢調査値による国立社会保障人口問題研究所の推計を基に、移動率をより直近の値に置き換えて求めた推計値

■平成34年における居住人口は73,400人

上記、2060年における“61,000人堅持”という長期目標を見据え、第5次犬山市総合計画の最終年度である2022年(平成34年)における人口は、推計値では72,700人となるところを、700人増の73,400人を目標としています。これを受け、都市計画マスタープランの目標人口も同じく73,400人とします。

②世帯数

■平成34年における世帯数は32,600世帯

世帯数は、今後も出生数の減少が進み、単身世帯や夫婦世帯の増加など世帯の小規模化が進むことが見込まれ、人口ビジョンにおいて想定した将来の世帯当たり人員によれば、平成34年（2022年）には、1世帯あたりの人数は2.25人／世帯となります。

この数値を用い、本計画における平成34年の世帯数は32,600世帯と想定します。これは平成27年の約28,300世帯からおおむね4,300世帯の増加となります。